江戸文化研究会

２月以降の行事予定

第 81 回	**講演会** **「浮世絵師・楊洲周延が描いた** **“大奥”の世界」**	２月 ７日(土)	文京総合 福祉センター 江戸川橋４階 視聴覚室	2026 年 １月 30 日(金) 締切	2/5
第 82 回	**金原亭馬生　落語独演会** **「花見の仇討」&「居残り佐平次」**	３月 21 日(土)	文京総合 福祉センター 江戸川橋４階 視聴覚室	３月 14 日(土) 締切	3/5
第 83 回	**講演会** **「江戸の髪形** **～その仕来りと舞台の髷(まげ)～」**	４月 日程未定	別途お知らせ	別途お知らせ	4/5
第84回	**浮世絵講座 「謎の絵師　写楽」**	5月 日程未定	別途お知らせ	別途お知らせ	4/5

※ 参加申込み要領

① 監査懇話会メンバーの方は、懇親会参加の有無を含めて担当世話人宛てにメールでお申込み下さい。

② 監査懇話会メンバー以外の方は、下記情報を明記の上　当会申込窓口宛にメールでお申込み下さい。
(会場の制約等の事情により、ご参加をお断りする場合がありますことを予めご了承ください。)
＜申込窓口＞
edobunka@outlook.jp

＜申込メール記載事項＞
- お名前(フリガナを付記して下さい)
- 所属団体名・会社名等……退職した方は旧・勤務先名等
- 参加希望日程・及び　行事名
- 懇親会参加の有無
- 緊急連絡用　携帯電話番号
- 電子メールアドレス

一般社団法人　監査懇話会
江戸文化研究会
https://kansakonwakai.com/cultural_activities/edobunka-kai/

第 81 回　江戸文化研究会

講演会　　「浮世絵師・楊洲周延が描いた“大奥”の世界」

日　時:　２月７日(土)　15:00 開講(14:30　開場)
場　所:　文京総合福祉センター　江戸川橋　４階　視聴覚室
講　師:　東京国立博物館　学芸研究部研究員　　村瀬可奈先生
（略歴）名古屋大学大学院文学研究科美学美術史学専攻
博士前期課程修了。
2013 年より愛知県美術館任期付学芸員、
2014 年より町田市立国際版画美術館学芸員、
2023 年より現職。専門は日本絵画(浮世絵)。
担当した主な展覧会に「清親一光線画の向こうに」(2016 年)、「美人画の時代―春信から歌麿、そして清方へ―」(2019　年)、「楊洲周延明治を描き尽くした浮世絵師」(2023　年)、「蔦屋重三郎　コンテンツビジネスの風雲児」(2025 年)など。

内　容:　楊洲周延(ようしゅう　ちかのぶ／1838～1912)は、明治時代に活躍した浮世絵師です。代表作「千代田の大奥」シリーズでは、江戸城大奥に暮らす女性たちの日常が、四季折々の風物とともに色鮮やかに描かれています。これらの作品は、往時の華やかな生活を彷彿とさせるものとして、発売当初から大きな人気を博しました。
では、周延は実際に見ることのなかった大奥の世界を、なぜ描こうとしたのでしょうか？
また、どのようにしてその情景を想像し、描き出したのでしょうか？
本講座では、「千代田の大奥」の誕生背景と、その大ヒットの要因をたどりながら、明治時代を彩った浮世絵の魅力に迫ります。

楊洲周延筆「千代田大奥　御花見」 東京国立博物館蔵(出典:ColBase)

会　費:　3,000 円
懇親会:　講演終了後、有志による懇親会(4,000 円)を予定いたします。参加申込時に併せてお申込み下さい。
申込み:　懇親会参加の有無を含めて　**1 月 30 日(金)までに**メールにて申し込みください。
世話人:　吉田　郁夫

第 82 回　江戸文化研究会

金原亭馬生　落語独演会

日　時:　3 月 21 日(土)　15:00 開演(14:30 開場)
場　所:　文京総合福祉センター　江戸川橋　4 階　視聴覚室
出　演:　金原亭　馬生師匠
演　目:　花見の仇討(Wikipedia による「あらすじ」)

長屋に住む 4 人の男が花見の趣向として、仇討ちの仮装芝居を考えた。巡礼に身をやつして仇を求める兄弟が諸国を旅した末に、花見の会場で親の仇である浪人に遭遇する。
「いざ尋常に勝負勝負！」
「敵討ちとは片腹痛い、返り討ちにしてくれるわ！」
そこへ旅の六部が割って入り、兄弟と浪人を諭す。そして皆で酒を酌み交わしてお開き、という筋書きだった。
花見の当日。六部役の男が旅姿になって会場に向かう折り、三味線を借りようと親戚の元を訪ねる。ところが六部姿の男を見た親戚は「親を捨てて旅に出るのか」と説教したうえ、無理に酒につき合わせる。もともと酒に弱い六部役の男は、そのまま酔い潰れて寝込んでしまった。
そんなことは知らない巡礼兄弟役と浪人役は、花見の会場で六部を待ちわびていたが、来る気配もない。3 人は仕方なく「親の仇ぃ！」と叫んでなれ合いの斬り合い芝居を始める。そこへ通りがかった武士が本物の敵討ちと勘違いし、抜刀して助太刀を申し入れる。
驚いた 3 人は揃って逃げだす。「おかしな敵討ちですねぇ。敵と一緒に逃げ出すなんて」と見物人が呆れる中、それを追いかける武士は叫ぶ。
「勝負は五分五分だ、なぜ逃げる！」
「勝負は五分でも肝心の六部が参りません！」

居残り佐平次(Wikipedia による「あらすじ」)
貧乏人たちが集まる長屋で、その一人・佐平次という男が品川宿の遊郭に行こうと周りを誘う。当然、貧乏長屋の住人らに遊郭で遊ぶような金はないが、佐平次は気にするなという。品川の遊郭にやってきた一同は、佐平次を信じて飲めや歌えで遊び尽くし、一泊する。翌朝、佐平次は理由をつけて自分はもう一泊する旨を仲間に告げ、皆を帰してしまう。その後、勘定にやってきた店の者に佐平次は、先程帰った仲間が代金を持ってくるなどと言ってはぐらかし、今度は一人で飲めや歌えで遊び、また一泊する。翌日になり、再び店の者が勘定にやってくるが、やはり佐平次ははぐらかし、また同様に一泊する。やがて痺れを切らした店の者に詰問されると、佐平次はまったく悪びれず「金はない」「仲間は来ない」と答える。店が騒然となる中、佐平次はまったく慌てず自ら布団部屋に入り「居残り」となる。
やがて夜になって店が忙しくなると、店の者たちも居残りどころではなくなってくる。すると、佐平次は頃合いを見計らって布団部屋を抜け出し、勝手に客の座敷に上がりこんで客あしらい(幇間)を始めた。居残りが接待する珍妙さと、佐平次の軽妙な掛け合い、さらに謡、幇間踊りなど玄人はだしであり、客は次々と佐平次を気に入り、佐平次は相伴に預かったり、祝儀までもらい始める。客が引くと佐平次は再び布団部屋へと戻り、また夜になると客あしらいを始め、数日後には客の方から、あの居残りを呼んでくれと声まで掛かるようになってしまった。本来の客あしらい(幇間)である店の若い衆らは、佐平次の活躍の分だけ、祝儀などをもらえなくなってしまったために、もはや勘定はいらないから佐平次を追い出して欲しいと主人に訴え出る。
……以下、略

会　費:　3,000 円
懇親会:　独演会終了後、有志による懇親会(4,000 円)を予定いたします。参加申込時に併せてお申込み下さい。
申込み:　懇親会参加の有無を含めて、 **3 月 14 日(土)まで**にメールにて申し込みください。
世話人:　羽持　彰

第 83 回　江戸文化研究会

講演会　　「江戸の髪形　～その仕来りと舞台の髷（まげ）～」

日　時：４月……日程は別途お知らせ
場　所：別途お知らせ
講　師：東京鴨治床山株式会社　　那須　正利（なす　まさとし）さま
（略　歴）昭和 21 年東京生まれ
昭和 36 年 15 歳で東京鴨治床山株式会社に入社
平成 22 年～平成 26 年まで同社役員

日本工学院での講習の様子

父は、十七世中村勘三郎、十八世中村勘三郎、中村勘九郎の三代にわたる床山・那須武雄で、父の代理でニューヨーク公演にも携わる。
吉右衛門劇団系や東宝劇団などの担当の後、現在は日本舞踊を担当し、藤間流、坂東流、花柳流等のかつらを手掛ける。
長年にわたり、歌舞伎・日本舞踊などの舞台において、役柄や時代考証に即した髪形を手がけてきた第一線の職人。
江戸時代の髪形を、文献上の知識としてではなく、実際に結い、形にしてきた経験に基づいて理解しており、その技と知見は演劇関係者の間でも高く評価されている。
学者的な研究とは異なる、床山という現場の立場から見た江戸の髪形を、具体例とともに語ることのできる稀有な存在である。

内　容：「ザンギリ頭を叩いてみれば文明開化の音がする」と謡われ、結髪（けっぱつ）の習俗が解消してから、すでに 150 年余りが経ちました。しかし、それは同時に、わずか 150 年前まで、日本人が男女を問わず“結髪の世界”に生きていたという事実でもあります。
本講演では、江戸時代の庶民や武士、女性たちが日常生活の中で結っていた実際の髷と、舞踊家や歌舞伎俳優が舞台上で用いる、意図的に誇張された舞台の髷との違いに着目しながら、江戸の結髪文化の実像と、その表現が舞台芸術の中でどのように昇華されてきたのかをひもといていきます。
講師は、長年にわたり舞踊・歌舞伎の現場で髷を手がけてきた床山として、文献や理屈だけではなく、実際に結い、形にしてきた経験を通して、「なぜこの形なのか」「どこまでが日常で、どこからが舞台なのか」を、具体的かつ分かりやすくお話し下さる予定です。
結髪という、今では失われた習俗を手がかりに、江戸の人々の美意識、身分感覚、そして芝居や舞踊における“見せる工夫”を、楽しみながら理解していただける講演をご期待ください。
会　費：3,000 円
懇親会：講演会終了後、有志による懇親会（4,000　円）を予定いたします。参加申込時に併せてお申込み下さい。
申込み：懇親会参加の有無を含めて、 メールにて申し込みください。（期限等　別途設定）
世話人：菅野　重雄

第 78 回　江戸文化研究会

浮世絵講座 「謎の絵師　写楽」

日　時：５月……日程は別途お知らせ
場　所：別途お知らせ
講　師：国際浮世絵学会　常任理事　　小池満紀子氏
（経歴）山梨県生まれ
国際浮世絵学会　常任理事、
中外産業（株）取締役美術品担当
（主要著書＝共著）
『広重 TOKYO 名所江戸百景』（講談社 2017 年）、
『小原古邨の小宇宙』（（青幻社 2018 年）

内　容：写楽は、忽然と現れ、大判、雲母摺役者大首絵を一度に 28 枚版行して、一躍脚光を浴びましたが、僅か 10 か月で姿を消した謎多き絵師です。
写楽とはどんな人物だったのでしょうか。
小池先生にはこれまで 3 回、広重や歌麿の浮世絵について講演していただきましたが、今回は、いくつもの写楽別人説や 10 か月で消えた謎について、役者絵の見どころを交え解説していただきます。
今まで、浮世絵に関心のなかった方にも楽しめると思いますので、是非、足をお運びください。

会　費：3,000 円

懇親会：　講演終了後、有志による懇親会（4,000 円）を予定いたします。参加申込時に併せてお申込み下さい。

申込み：懇親会参加の有無を含めて、メールにて申し込みください。（期限は別途設定）

世話人：窪田　隆